

## 2021年3月期 通期決算に関する主なご質問

### <2022年3月期業績予想について>

Q: 2022年3月期の通期業績予想について事業別の前提を教えてください。

A: グループ全体としては安定的な需要回復を想定していますが、リスク要因もあり、やや慎重にみています。建築用ガラス事業においては、売上は2020年3月期の水準まで回復させたいと考えています。一方で、2021年3月期第4四半期において、特に欧州で価格、数量ともに改善が顕著でしたが、この傾向が通年で続くかどうかは不透明です。自動車用ガラス事業においては、全体として需要は堅調に推移する想定ですが、半導体不足の影響が上期中は続く可能性があります。売上への影響額はグループ全体で数十億円程度あるものとみています。また、原燃材料などの価格上昇による悪化要因も想定しています。

Q: 太陽電池パネル用ガラスの見通しは？

A: 北米の新窯は2020年11月に稼働を開始しており、2022年3月期にはフル稼働を想定しています。需要も好調であり、数量増加を見込んでいます。

Q: 2021年3月期において、緊急コスト削減および、人員削減を含むコスト構造改革を行っていたが、2022年3月期の業績に寄与する金額はどの程度か？

A: 前期に実施したコストダウン活動のうち、緊急コスト削減での実施項目の中には売上の増加に伴って増えるコストもありますが、人員削減等による固定費削減効果は確実に現れるとみており、グロスでは年間で3桁億円（100億円）以上の改善効果を見込んでいます。

Q: 建設を再開するアルゼンチンの新窯について、稼働開始はいつ頃か？

A: 当初計画では2021年3月期に稼働を開始する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による需要の急減を踏まえ、一時的に投資を凍結していました。現在はエンジニアの国外移動が制限されているため、この状況次第ではありますが、できる限り早く建設を進めたいと考えています。

### <中期経営計画「リバイバル計画24(RP24)」について>

Q: RP24 最終年度の営業利益率の目標を8%としているが、コスト削減効果もあるとすれば、もっと高い営業利益率を目指せるのではないか？

A: 建築用ガラス事業、高機能ガラス事業は比較的高い営業利益率を維持していますが、全体の営業利益率改善のためには、自動車用ガラス事業の更なる改善が必要と認識しています。固定費削減や高付加価値化も進めていますが、前回の中期経営計画（MTP）が未達であった結果も踏まえて、課題として残っている部分であり、慎重にみています。

Q: RP24 期間における自己資本比率の改善に向けた施策として、どのようなことを考えているか？また、未償還のA種種類株式の償還方針は？

A: まずは純利益の積み上げによる自己資本の改善を目指します。その上で、中長期的視点で財務基盤の強化についても機動的に検討する方針です。A種種類株式については自己資本の状況を見ながら、今後の財務体質の改善を踏まえながら、なるべく早期に償還を進めていきたいと考えています。まずはRP24目標の達成に注力します。

Q: RP24 期間において、一定規模の営業利益を積み増していくためには、コスト削減と高付加価値製品売上の拡大と、どちらが貢献度が高いか？

A: 両方とも重要ではありますが、計画では、よりコスト削減の方に重きを置いています。